

3. プレオフロアブルのミナミキイロアザミウマに対する温度別の殺虫効果 (情報)			
[要約] プレオフロアブルは、ミナミキイロアザミウマに対する殺虫効果は高いが、低温条件下では効果の発現時期が遅くなる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

プレオフロアブルは天敵や花粉媒介昆虫に悪影響が小さく、ミナミキイロアザミウマに効果が高く総合的病害虫・雑草管理（IPM）に適合した殺虫剤として期待されている。しかし、栽培現場ではミナミキイロアザミウマの防除にプレオフロアブルを散布しても効果が不十分との指摘もあるので、原因を明らかにする。

[成果の概要・特徴]

1. 促成栽培ナス圃場でのプレオフロアブルのミナミキイロアザミウマに対する防除効果は、モスピラン水溶剤と比較して高かった（表1）。
2. プレオフロアブル処理1日後のミナミキイロアザミウマ成虫の死虫率は、25℃区が最も高く、次いで20℃区、15℃区の順であった（表2）。しかし、処理3日後には、いずれの温度区でも死虫率はほぼ100%になった。

以上の結果、プレオフロアブルのミナミキイロアザミウマに対する防除効果の発現時期は、温度が低くなるほど遅くなる。

[成果の活用面・留意点]

1. ミナミキイロアザミウマと肉眼で判別が困難なミカンキイロアザミウマなどが同時に発生する場合、ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマに対するプレオフロアブルの殺虫活性が低いので、これらアザミウマ類が生き残ることがある。
2. プレオフロアブルは鱗翅目害虫に対しても同様の傾向があるとされている。

[具体的データ]

表1 促成栽培ナスにおけるミナミキイロアザミウマに対するプレオフロアブルの防除効果

供試薬剤	希釈倍率	5月11日 散布前	5月15日 散布4日後	5月18日 散布7日後	5月22日 散布11日後	5月25日 散布14日後
プレオフロアブル	1,000倍	8.7 —	2.2 15.6	2.9 15.4	3.7 11.3	3.8 7.2
モスピラン水溶剤	4,000倍	8.6 —	5.8 42.2	8.9 47.7	14.7 45.0	23.4 45.0
無処理	—	7.2 —	11.4 100	15.5 100	27.2 100	43.3 100

注) 上段は葉当たり成幼虫数、下段は補正密度指数を示す

表2 ミナミキイロアザミウマ成虫に対するプレオフロアブルの温度別殺虫効果 (葉片浸漬法)

薬剤名	希釈倍率	温度	反復数	供試虫数	死虫率 (%)	
					1日後	3日後
プレオフロアブル	1,000倍	25℃	6	120	92	100
		20℃	6	129	75	100
		15℃	6	123	55	98
スピノエース顆粒水和剤 (対 照)	2,500倍	25℃	3	37	97	100
		20℃	3	44	100	—
		15℃	3	52	100	—
アフーム乳剤 (対 照)	2,000倍	25℃	6	123	93	100
		20℃	6	126	98	100
		15℃	6	98	67	100

注) 死虫率はAbbotの補正式による補正值を用いた

[その他]

試験研究課題・事業名：プレオフロアブルの効果的な活用方法

予算区分：県単（現地緊急対策）

研究期間：平成18年度